

主要科目の特長（現代社会学部現代社会学科）

現代社会学科の教育課程（カリキュラム）を構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

（1）NGU 教養スタンダード科目

・キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

・自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

・情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実は、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、ノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

・言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

・社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

・教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

(2) 専門科目

《専門科目》の中に《専門基礎科目》、《基幹科目》、《展開科目》、《関連科目》および《演習科目》という科目群が設定されています。

① 専門基礎科目

この科目群は、現代社会学部で《専門科目》を学修する上で必要な基礎的知識と能力・方法・態度を修得するための6つの《専門科目》で構成されています。「社会学入門」、「経済学入門」、「法学入門」および「地域政策入門」の4科目は、社会学、経済学、法学、政策・地域の各領域から導入科目として厳選したものであり、すべて必修になっています。

また、「現代社会入門」は、専門的な学修に向けた導入として、現代社会を学ぶ意義、ならびに現代の時事問題に関する基礎知識を理解することを目的とした科目であり、「社会リサーチ入門」は、現代社会の現状や課題をリサーチする基礎的な方法や態度、さらに課題発見・問題解決型能力を身につけることをめざした基礎的科目です。

② 基幹科目

この科目群は、その名のとおり現代社会学部の基幹となるもので、カリキュラムを構成する4つの基本分野である〈人間社会と心理〉、〈経済社会と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉から厳選した16科目ならびに「プロジェクト演習A・B・C」で編成されています。これらはすべて選択科目ですが、可能なかぎり履修し、単位を修得することが望ましい科目に位置づけられています。

「社会学理論」、「家族社会学」、「情報社会論」および「社会心理学」は、現代社会を理解する上で重要な社会学および心理学の分野の中から、現代社会学部のカリキュラムに必要な基本科目を厳選したものです。「文化人類学」、「文化政策論」、「社会政策論」、「福祉社会論」および「経済社会学」は、それらを補完し、人間・政策・文化・経済につながるもので、《展開科目》でより専門的な学修を進めるために必要な基本科目です。「現代経済分析」、「経済政策論」、「情報産業論」および「日本経済入門」は、経済学の基礎や実用的な経済知識を身につけ、産業・企業・政策・地域などについて学修するための基本となる科目です。また、「民法入門」は、社会制度や政策の基礎となる現行法の基礎を学ぶ科目であり、「名古屋都市論」は、本学の名古屋キャンパスが立地し、現代社会学部の主要なフィールドとなる大都市「名古屋」について学ぶ科目です。「社会統計学入門」は、現代社会について、データに基いて分析するために必要な統計学の基礎を学ぶ科目です。

さらに、「プロジェクト演習A」および「プロジェクト演習B」ならびに「プロジェクト演習C」は、現代社会に対する問題意識や研究関心を涵養するとともに、課題発見・問題解決型能力を育成し、かつ実社会の具体的な課題や問題解決に活用できる実践的な専門的知識や能力を身につけることをめざした科目です。

③ 展開科目

《展開科目》は、カリキュラム表で確認できるように、現代社会学部の4つの基本分野、つまり〈人間社会と心理〉、〈経済社会と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉によって編成されており、それぞれには、関連する領域から厳選された《専門科目》が配置されています。

〈人間社会と心理〉は、社会の人的側面や心理的要因から現代社会にアプローチし、人が人間らしく生き、人間の生への配慮や支援のできる社会づくりに必要な知識と能力を身につけるための科目群によって構成されており、そこには、社会学、経済社会学および心理学などから採用された科目が配置されています。〈経済社会と企業〉は、経済学の体系を念頭におきつつ、成熟した現代社会や社会生活を支える経済を社会の中に位置づけ、そのしくみや働き、その人間社会にふさわしいあり方について学ぶための科目群によって編成されており、なかでも、広く経済社会に関わりのある科目ならびに経済を担う産業や企業に関する科目が多く配置されています。

また、〈社会制度と政策〉は、現代社会を動かす大きな要因として、社会生活を制度的に基礎づける法律と社会を運営する行政や政策、その現実や本来のあり方について学ぶための科目群によって構成されています。〈社会生活と地域〉は、人間の社会生活やそれを大きく規定する地域から現代社会にアプローチし、社会の中で他者との協働により自分の生活を自分らしく構築し、社会を動かしていく上で求められる知識と能力を身につけるための科目群によって編成されており、そこには、経済学、法学、社会政策論、地誌学、地域政策論および都市政策論などから採用された科目が配置されています。

④ 関連科目

この科目群は、現代社会学部がめざす特別な教育目的のために必要とする「専門科目」によって編成されたもので、そこには、次のような2つのカテゴリーがあります。

〈スキル&社会調査〉には、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させるための「デジタル・プレゼンテーション」と「データ表現技法」、「社会調査士」の資格認定に必要な科目、ならびに「スキル開発」が配置されています。「社会調査士」資格の取得について、詳細はP70の4)で説明しますのでよく確認してください。また、「スキル開発」は社会で求められる専門知識や技能の習得を推奨し、単位認定するものです。資格等の難易度に応じて初級、中級、上級があります。「スキル開発」の認定資格や条件についてはP72で説明しますので、よく確認してください。

また、〈留学&インターンシップ〉には、現代社会学部が推奨する「留学プログラム」での学修を単位認定するための「国際理解 1~8」、ならびに特色あるプログラムとして推進する「社会体験インターンシップ」での学修を単位認定するための「社会体験インターンシップ1・2」が配置されています。「社会体験インターンシップ」についても、詳細はP69の2)で説明しますのでよく確認してください。

(3) 演習科目

1) 演習科目（ゼミナール）とは

現代社会学部では、1年次~4年次の全学年にわたり、少人数によるゼミナール形式の演習科目を配置し、4年間一貫のゼミナール教育をおこなっています。大学ではよく「ゼミ」と呼ばれます。こうしたゼミナールは、1年次春学期に「NGU 教養スタンダード科目」で開講される「基礎セミナー」で始まり、さらに専門の「演習科目」には、2年次の「専門基礎演習」、3年次の「現代社会演習1」、4年次の「現代社会演習2」があります。

また、ゼミナールでは、大学・学部における学修のそれぞれの段階で、ゼミ担当の教員に

よる指導のもと、自分の問題関心を深め、課題を発見し、研究や討論をとおして課題を解決しながら自分の能力を向上させていくこととなります。その指導教員は、あなたにとって「クラスアドバイザー（クラス担任）」ですので、学修のこと、学生生活のこと、将来のことなど、何でもいいですから気軽に相談してください。また、その中では、指導教員との交流だけではなく、多くの友人関係が育まれますので、そうすれば、ゼミナールは、きっと、あなたにとって大学生活の大切な思い出になると思います。

2) 演習科目の履修にあたって

以下では、各演習科目＝ゼミナールの内容とその履修にあたっての注意事項などについて説明しますのでよく確認してください。

① 基礎セミナー

1 年次春学期の「基礎セミナー」は、大学・現代社会学部での学修への導入・基礎教育であり、2 年次以上の専門的学修の準備段階となる必修科目です。そこでは、名古屋学院大学に親しんでもらうとともに、大学での学修を体験的に理解し、大学生活に必要なアカデミックスキルを身につけてもらいます。なかでも、a) 大学での学び方、b) 文献資料の調査・検索のしかた、c) レジюме・レポートの作成のしかた、d) 報告・発表やディスカッションの工夫、などのスキルや能力の修得は必須ですのでがんばりましょう。

② 専門基礎演習

2 年次の「専門基礎演習」は、1 年次に身につけた「学びの技法」を専門的学修や学問に有機的に結びつけることを目的としています。特に、3 年次以降の学修や専門的研究ならびに「現代社会演習 1・2」の準備や土台づくりとして次のような 5 つの力を身につけることをめざします。

- a) 課題を発見する力 b) 自分を表現する力 c) とともに議論する力
- d) 問題を解決する力 e) 実践や行動する力

このゼミナールは、講義で学んだ専門的知識を生かしながら、さまざまな問題について話し合い、議論をたたかわせ、現代社会へのアプローチを広げ、関心を深め、お互いに自分の課題テーマを見いだす場となります。したがって、ゼミナールの時間や活動には必ず出席しなければなりません。

③ 現代社会演習 1

3 年次から 4 年次にかけての「現代社会演習 1」、「現代社会演習 2」は、現代社会学部での学修の総仕上げになります。まず 3 年次の「現代社会演習 1」では、ゼミナール担当教員の指導のもとで専門的学修をさらに進め、自分の研究課題を追究します。このときには、現代社会学部の特色である「現代社会を学ぶアイテム」や「アクティブな学び」が役に立つはずですが、また、ここでは、「現代社会フォーラム」参加に向けた作業、社会見学やフィールドワーク、ゼミ合宿やゼミ旅行、および進路相談や就職活動に向けた準備など、さまざまな行事やゼミ活動もおこなわれます。ゼミごとにどの点に重きを置くかは異なりますので、事前に確認しておきましょう。そして、終了時には、自分の研究課題についてまとめた研究報告書を作成します。この研究報告書を提出しないと、4 年次の「現代社会演習 2」を履修できません。

るので気をつけてください。

④ 現代社会演習 2

4年次の「現代社会演習 2」でも、ゼミナール担当教員の指導のもと、専門的学修の仕上げとともにゼミナールでの研究成果のまとめをおこないます。また、同時進行で、「卒業研究」の作成指導もおこなわれます。この指導のもとで論文を書き上げ、提出すると、「卒業研究」を含む 8 単位が付与されます。この 4 年次のゼミナールでも、さまざまな行事やゼミ活動が展開され、さらに必要に応じて就職活動に対する支援や就職相談も継続しておこなわれます。

◎専門科目の一部をピックアップ

check! 情報社会論	check! 地域コミュニティ論
	
<p>何を学ぶのか</p> <p>情報化による社会構造や地域社会の変化を学ぶ。</p> <p>本講義では、社会学における近代化論を理論的な枠組みとして、情報化が社会構造や地域社会に対していかなる変化をもたらしてきたのか、また今後いかなる変化をもたらす可能性があるのかについて学びます。</p>	<p>何を学ぶのか</p> <p>地域コミュニティのあり方について考える。</p> <p>「地域コミュニティ」について深く掘り下げて学びます。抱える具体的な課題、まちづくり事例のケーススタディなどに幅広く取り組みながら、これからの地域コミュニティのあり方について考えていきます。</p>
<p>将来にどう生きるのか</p> <p>時代の変化に惑わされない洞察力を養う。</p> <p>情報社会という言葉は現代の大きな特徴を示すものです。人工知能や自動運転、ビッグデータ、DX、チャットGPT、テレワークなど、時代を彩るトピックの移り変わりに惑わされることなく、社会を洞察する目を養います。</p>	<p>将来にどう生きるのか</p> <p>将来に役立つ課題発見力・問題解決力を養える。</p> <p>地域コミュニティについての知識と実践的なケーススタディによって分析・考察をバランスよく行うことで、課題発見力・問題解決力を養います。それは特定の分野に関わらず、社会で活躍するための強みになります。</p>